

令和4年度専修大学スポーツ研究所 研修会報告

スポーツ研究所では、2019年までに様々なプロスポーツチーム、学外諸教育機関・団体、自治体を対象とした研修会を通じ、その強化策やスポーツによる地域振興方策などの調査研究を行ってきた。しかし、2020年以降は、世界的に流行した新型コロナウイルスによるパンデミックによって、研修会の開催を中止せざる終えなかった。そして、2022年度は、新型コロナウイルスの流行も落ち着きをみせ、3年ぶりに研修会を沖縄と東北で分散するかたちで開催された。1年延期されて開催された東京2020オリンピック・パラリンピック大会による影響やレガシーなどによって、スポーツを取り巻く環境は、産官民含め大きく変化したと思われる。そのような強化策やスポーツによる地域振興方策について紹介する。

沖縄の地域スポーツの取り組みと世界最先端研究施設の視察

研修会1

沖縄県スポーツ協会のスポーツコンベンション事業の取り組み

訪問先 沖縄県スポーツ協会

日時・場所 令和5年1月25日(水)・沖縄県スポーツ協会内会議室

担当者 沖縄県スポーツ協会 平良 朝治、島袋 琢司、前原 次男、山里 亮子、金城 有香、平良 裕
琉球大学 砂川 力也、三輪 一義

参加所員 佐藤 満、平田 大輔、李 宇諤、相澤 勝治、柏木 悠

砂川氏:本日、司会を務めさせていただきます、琉球大学砂川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。まず初めに、沖縄県スポーツ協会の平良専務理事のほうよりごあいさつを頂戴します。よろしく申し上げます(写真1)。

平良専務理事:皆さん、改めましてこんにちは。この度は専修大学のスポーツ研究所の皆さまに、私ども沖縄県スポーツ協会の活動状況を研修されるということで大変光栄に存じます。また、先般皆さま方が研修された宮崎さんの報告書等を拝読させていただきました。私ども取り組みを後々報告書という形で受けるということは、今日私どもの担当課長等が説明申し上げますけれども、その内容等が各地に報告書として行き渡れば私どもの今後の活動にも十分寄与していただけるものだと考えています。どうか私どものご説明は拙いとは思いますが、今日の研修会が専修大学の皆さまの有意義な研修となるよう祈念申し上げます、

沖縄県スポーツ協会を代表しての挨拶したいと思います。1時間の限られた時間ですが、どうぞよろしくお願いいたします。(写真2)

砂川氏:平良専務理事ありがとうございました。

全体の流れとしては、最初に30分ほど、スポーツ協会さんのほうから事業の取り組みの説明をしていただきますが、その前に専修大学のスポーツ研究所の所長の佐藤先生のご挨拶を頂ければと思います。

佐藤所長: こんにちは。専修大学スポーツ研究所の佐藤と申します。私の専門競技はレスリングです。この度は研究所研修会に、お忙しい中お時間をいただきまして、本当に感謝しております。現在、スポーツ研究所には教員13名おりますが、この4月からまた1名加わりまして14名になります。その中でそれぞれが所員として研究活動や地域貢献、中高年公開講座などを実施して活動しております。また、著

名な方々を招いてのシンポジウムや研究会を年3~4回ほど開催しております。今回の研修会は年1度実施しておりますが、今年は2グループに分かれまして、もう一つは東北への研修会を実施しています。研修会を通して地方の



写真1 (写真右から: 砂川氏、三輪氏)



写真2 (平良専務理事)



専修大学スポーツ研究所研修会
～～沖縄県スポーツ協会概要及び事業内容について～～

令和5年1月25日(水)
沖縄県スポーツ協会局内会議室

公益財団法人
沖縄県スポーツ協会

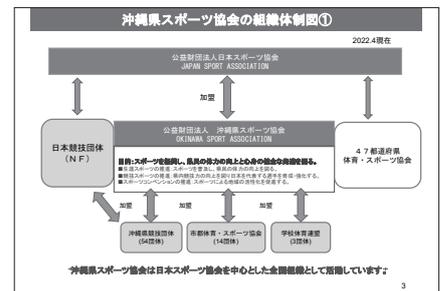
事業概要スライド1

公益財団法人沖縄県スポーツ協会
2022.4月現在

○概要
沖縄県スポーツ協会はスポーツを振興し、県民の体力の向上とスポーツ精神の養成を通じて心身の健全な発達を図ることを目的に、各種事業を展開している。
本会の加盟団体は競技団体(54)、市郡体育・スポーツ協会(14)、学校体育団体(3) 合計71団体

○事業推進
競技スポーツの推進
沖縄県民体育大会の開催(県内競技スポーツの推進)
競技力の向上(選手の育成・強化)
国民体育大会での上位入賞やオリンピック等世界大会への日本代表選手の育成
生涯スポーツの推進
スポーツの普及・振興
スポーツ少年団や総合型スポーツクラブの育成、スポーツレクリエーションの普及
スポーツコンベンションの推進
スポーツコンベンション沖縄(平成26年度 業務移管)
受入態勢を整備を図り、スポーツコンベンションの受入・開催を行う。

事業概要スライド2



事業概要スライド3

方々と交流を深めて勉強させて頂ければと思っております。今回は沖縄県スポーツ協会の皆さまから色々ご指導いただき、有意義な研修会とさせて頂ければと思いますので、何卒よろしくお願致します。(写真3)

砂川氏:佐藤先生ありがとうございました。それでは早速、事業の説明を島袋さんより願います。

島袋事務局長:事務局長をしています島袋と申します。本日はよろしくお願致します。今日は事前に沖縄県のスポーツコンベンションの取り組みについてお聞きしたいという話を聞いていますので、私の方からスポーツ協会の概要と事業の内容について説明させて頂き、その後、スポーツコンベンションの担当の山里よりご説明させていただきます。お手元の資料の通り、スポーツ協会の事業概要はスポーツ振興を通して県民の体力とスポーツという要素を通じて心身の健全な発達を図ることを目的としています。加盟団体としては競技団体が54、それから市郡体育スポーツ協会が14です。学校体育団体は中体連や高体連、それから野球の高野連を合わせて71団体ですが、1団体が休会しており、正確には70団体で活動しているという状況です(事業概要スライド2)。(写真4)

事業推進の大きな内容としては、こちらの下の枠に書いてあるとおり、太字の部分ですが、競技スポーツの推進と生涯スポーツの推進、それから沖縄県として特徴的なのがスポーツコンベンションの推進という分野をスポーツ協会の業務として取り組んでいる状況です。

資料の3ページになりますが、組織体系図としては、他県の状況と類似しています。日本スポーツ協会の加盟団体として、県のスポーツ協会がいろいろなスポーツ政策をしているという中で、連携しているのはNF(中央競技団体)さんとか、あとは他県のスポーツ協会さんとも当然連携しています。そして、加盟団体が71団体というところです。

次に本スポーツ協会の組織の体制図になります。専門委員会として総務委員会、競技力向上委員会など、ここは有識者の方々にも依



写真3 (佐藤所長)

頼して委員会構成をしています(事業概要スライド4)。

事務局の体制としては専務理事、事務局長、総務課5名、事業課7名、コンベンション推進課8名の22名で業務を進めています。

令和3年度にスポーツ協会として目指す目標と、それからそれを実現するための施策の基本方向を位置付けた表をご確認ください。(事業概要スライド7)。目指す目標としては「スポーツアイランド沖縄」の形成としており、それを達成するために冒頭でも説明したような「競技スポーツの推進」、それから「生涯スポーツの推進」と「スポーツコンベンションの推進」とを位置付けて取り組んでいます。重点目標ごとに基本施策などをそれぞれ設けて、基本施策ごとの施策方向性を細かく位置付けて、それらに対応する具体の取組を定めております。

せっかくなので少し予算的なこともご確認いただきながらコンベンション推進のご理解を頂ければと思います。これは県のスポーツ振興課の令和4年度の当初予算の概要です。スポーツ協会の各事業も、大部分が県からの委託料や補助金で運営されていますので、やはり県の行政の中で予算的なものから取り組みがどういった部分でどれだけの役割を担っているかというのは予算の流れを見ていただくと分かりやすいかと思うので、少しこの資料を説明させて頂きます。

予算概要としては、県のスポーツ振興課が作成した資料であります。参考までにご確認下さい。

島袋事務局長:ここは当然、県の事業として展開されているので、協会がやっているスポーツコミッションの体制整備事業の取り組みと少



写真4 (写真左から:平良主任、島袋事務局長)

しやはり連携部分が多々ありますので、そこは県と連携して一緒にやっていっているところ。この2つの整備事業、コミッションの整備事業とコンベンション誘致戦略推進事業が連動して沖縄のスポーツコンベンションの推進に取り組んでいるという状況です。

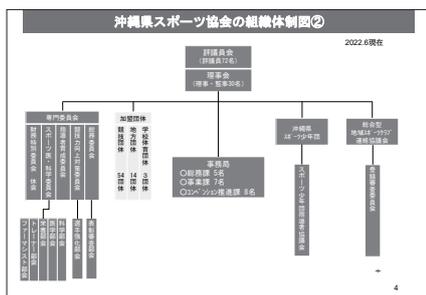
長くなりましたが大体の概要としては以上のとおりです。では、あとは今日の本題だと思います。スポーツコンベンションの推進事業の内容の説明については担当の山里課長から願います。

山里課長:では、コンベンション推進課の取り組みについて資料に沿ってご説明します。皆さまに紙の方でもお配りしていますが、画面の方でも共有しています。

まず2ページの方ですが、コンベンション推進課の取り組みとしまして、まずコンベンション推進課におきましてはスポーツコミッション沖縄の機能を担っています(スポーツコンベンションスライド2)(写真5)。

沖縄県21世紀ビジョン実施計画、および沖

事業概要スライド7



事業概要スライド4



事業概要スライド5



事業概要スライド6

ことで、そういった環境が整っているかも含めましてチームの方には見いただいています。

その結果としまして令和4年度、今年度におきまして、コベルコ神戸、ラグビーの著名な旧神戸製鋼というチームが沖縄県国頭村で初合宿を実施したという写真が右側になっています。

続きまして3番目(スポーツコンベンションスライド5)、県内のスポーツ環境等の動向把握ということで、こちらは公共スポーツ施設設備改善アドバイザー派遣事業のご紹介となります。この事業の内容としましては、スポーツ施設の施設の新設、改修、または備品購入等を計画している市町村に、競技団体等が選定したアドバイザーを派遣し、より質の高い競技環境にするための助言を行っています。

市町村からの申請に応じて対応していますが、事例としまして今年度の早い段階で実施しました豊見城市の市民体育館、ナショナルチーム等も利用できるトレーニング機器を導入したいということでアドバイザーを派遣した際の写真を掲載しています。こちらは豊見城市の体育館が一般利用ということで利用されているトレーニング室について、バレーボールのパナソニックパンサーズさんが合宿をされるということで、パンサーズさんがトレーニングルームのほうでそのままトレーニングできるような、一般の市民利用とチームの利用というところも含めて、全体としてトレーニング機器をどのように配置すればいいとか、こういった機器を導入すればいいかというのを専門家をアドバイザーとして派遣した事例になっています。

スライドの下の方は事後調査ということで、過年度に実施したアドバイザー派遣施設が実際にどのような改善がされたということだったり、どのような形で整備されたかというのを事後的に確認しているものとなっています。スライドの左側から伊江村のトレーニング室であったり、八重瀬町のトレーニング施設、トレーニング室のニーズが多くなっている状況がありますが一番右側の写真は宮古島市の伊良部野球場の芝管理ということで、2021年11月には、きのこがかなり生育して芝環境が悪い状

況がありましたが、専門家を派遣しまして芝管理のアドバイスを受けた結果、2022年8月には、きのこの生育はかなり抑えられて環境が改善されたというようなものになっています。

続いて4番目のプロモーション活動となりますが(スポーツコンベンションスライド6)、スポーツコミッション沖縄としまして、ブース出展やウェブを通して本県のスポーツ環境のPR、スポーツキャンプ情報の発信を行うとともにスポーツコミッション沖縄の認知度向上を図っています。スライド一番左側のほうがJapan Sports Week、スポーツツーリズムEXPOということで、プロスポーツ・トップリーグチーム向けの総合展示会が5月の3日間、東京ビッグサイトで開催されていますが、スポーツ協会独自の2回目の出展ということで沖縄のスポーツ環境をPRしています。スライドの真ん中がSPORTEC 2022ということで日本最大のスポーツ総合展示会、7月の3日間、こちらも東京ビッグサイトで行っています。スライド下の写真ではスポーツ庁の室伏長官が沖縄県のブースを訪れまして激励の言葉をいただいたところの写真を掲載しています。こういった出展活動が合宿にどのように効果があつたかということについて、スライド右側の出展後の合宿相談案件としまして、ラクロス国際大会が3月に実施される予定であったり、野球合宿のほうも2月~3月にかけて、この出展を通して合宿に結び付いたというようなもののプロモーション活動のご紹介となっています。

今日皆さまにお配りしています冊子がありますがけれども、沖縄トレーニングキャンプガイドであったり、こちらのガイドは全体として沖縄県のスポーツ施設の紹介、どの市町村にどのような施設があるかというご紹介のガイドブックになっていますが、こういった出展の際にも、少し見えにくいのですが室伏長官の右側にこういった地図を掲示しまして、訪れた方に、こういうスポーツ環境が整っていますよというようなPRをしています。室伏長官もこの地図を見ながら、沖縄県にこういう施設があるのだなということをご覧になっていました。出展に使っている資料で、沖縄県の施設の紹介に

なっていますので、皆さんで確認いただければということで提供させていただいています。

最後に5のスポーツコンベンション実施の気運醸成ということですが(スポーツコンベンションスライド7)、歓迎式などを行いましてスポーツコンベンションの継続的な実施の盛り上げを演出しています。キャンプの歓迎式としまして、スライド左側のほうからNTTドコモレッドハリケーンズ大阪さん、令和4年9月~10月で沖縄県北部の国頭村のほうでの実施。真ん中のほうが男子7人制ラグビー日本代表ということで令和4年9月~10月にかけて読谷村ZANPAプレミアムのほうで。スライド右側のほうがウエイトリフティング男子日本代表、1月9日~19日まで実施しましたが、こちらも沖縄県北部の国頭村のトレーニングハウスで実施されています。

こういった歓迎式の際の横断幕の制作であったり、ミス沖縄を派遣したり、花束贈呈の贈呈品の提供などの支援をスポーツ協会が県のほうから委託を受けて実施して、全体として盛り上げを演出するという形でやっています。それからスライド一番下の方に日本女子プロゴルフ選手権大会2024の開催記者会見の様子をご参考までに入れてあります。こちらは女子プロゴルフ協会ツアー公式戦4大会の1つである大会が沖縄県で初開催ということで注目を浴びている大会でして、大会期間としては2024年、来年になりますが9月5日~8日です。かねひで喜瀬カントリークラブでの開催ということで、ホテルの方で記者会見を行ったところ多数のメディアも訪れていただきました。日本女子プロゴルフ協会の小林会長だったり、企業から金秀グループの会長さんであったり、うちの協会から渡嘉敷理事長も参加をしまして記者会見を行っています。理事長のコメントとしまして、「スポーツコンベンションを推進することは経済効果のみならず、沖縄観光の課題である閑散期と繁忙期の平準化や地域の活性化に寄与し、スポーツの持つ魅力を発信することができる貴重な機会となる」というような発言がありました。沖縄県におきましては、スポーツコンベンションの推進は観光の施策としての経済的効果のみならず、訪れた



スポーツコンベンションスライド5



スポーツコンベンションスライド6



スポーツコンベンションスライド7



写真6 (写真左から2番目 相澤氏)

チームが地域の子どもたちと交流することで、競技力向上や青少年の健全な育成など、社会的な効果といわれるものについても効果があるものと考えていますので、今後もスポーツコンベンションの推進に取り組んでいくこととしています。

スポーツコンベンションの説明は以上になりますが、参考までに今年開催されますバスケットボールの国際大会について、沖縄県で初めてのこういったワールドカップ国際大会が実施されるということで、今後沖縄県もこういったような実績を積みまして、コンベンションの推進に取り組んでいけるかと考えています。説明は以上になります。

砂川氏: ありがとうございます。大変興味深いお話が盛りだくさんで、聞いていて本当に勉強になりました。残りの約20分、30分ぐらいになりますけれども、ここからはフリートークということで、沖縄の方言でいうと「ゆんたく」と言うのですけれども、あまり形式ばらずに自由に情報交換の時間にしたいと思いますので、ぜひご意見・ご質問がありましたらよろしくお願ひします。

<質疑応答>

佐藤所長: 私の方から5のスポーツコンベンション実施の機運醸成では合宿などの試みを数多くやられていると思うのですが、そのための2の関係機関との連携体制構築における宿泊施設やいろいろなイベントにつながっているわけですよね。

山里課長: そうです。うちの方では市町村へのコンベンションの受け入れ意向とか調査もかけまして、どういった種目を誘致したいか、市町村の意向に沿った誘致を適切にできるよ



様子1

うにというところの調査もやりまして、適切なコーディネートというところに取り組んでいます。

佐藤所長: 私も2010年1月頃か時期は定かではないですが、過去に2012年ロンドンオリンピックの代表合宿で訪れています。当時、日本代表が訪れると言うことで、東京オリンピック銅メダリストの屋比久翔平選手のお父さんである屋比久先生が高校生の引率をして、技術指導を兼ねながら合同練習をしました。我々はロワジールホテルに宿泊、練習施設は歩いて行ける場所にマットを敷いて頂いておりました。ナショナルトレセン (NTC) での恒常合宿から、暖かい沖縄に来て砂浜を走らせたり、厳しい練習の中で気分転換も図りながら実施することが出来ました。しかし、受け入れる際の施設の準備等が大変ですので、それを簡単にいろいろな競技を受け入れられるような多目的な施設やシステムがあれば良いかなと思いました。

専修大学レスリング部の学生は30名ほどですが、他大学と合同で50名、100名となると、マットの準備などすぐに提供できるかといったらないわけですね。多目的な施設の中で用意されていると大変助かりますし、各競技団体も招致しやすいと感じました。

今はJリーグやプロ野球のキャンプの季節ですが、大学は9月の20日ぐらいまで休みですから、この季節はチャンスかなと思います。そこでラグビーのお話がありましたが、サッカーとキャンプ時期が重複しないように誘致されており良い試みをされていると思います。有難うございました。

砂川氏: 他はいかがでしょうか。

相澤氏: 私の方から、すごく分かりやすい発表をありがとうございました。専修大学の方でスポーツの体育実技とか健康スポーツ論などを教えているのですが、授業の中で沖縄の子が専修大学にもそんな多くないのですがおります。自分の授業で地域の健康課題についてレポートを書かせた時に、真面目な子だったという印象があるのですが、運動不足で少しの距離でもタクシーを使い、その影響として肥満が一つの課題になっているという内容のレポートを書いておりました。最後にお話しになっていた環境としては、意外と施設的环境が整っていて、トップアスリートにも触れる機会が他の県よりあると感じたのですが、そういった環境が実際に子どもたちの運動習慣や体力向上に対して、どのようなアプローチがありますでしょうか。もし事例などがあれば教えていただきたいと思います(写真6)。

山里課長: 習慣ではないのかもしれないですが、昔から沖縄県は高校野球の盛り上がりというものがあるのですが、野球のキャンプは何十年も前から沖縄県は継続されてプロ野球のほうも実施されている中で、やはり沖縄県の高校野球が盛り上がっているのはプロ野球に触れる機会が長年あったからではないかということもあります。県民は高校野球、県の代表がやっている時には道路に車が走らないというぐらい、皆さん県民が一丸となって応援するみたいなどころは、そういった野球に触れる機会があったところの影響と、野球の競技力の向上などにも影響があったのかなということも考えては……どうですかね。科学的なものではないですけども。

島袋事務局長: やはり今言ったようにトップアスリートが来ていただいた時に、やはり地元の子どもたちも極力何かしら還元したいという、そういう気持ちはあるので、一応チームが来る時にはできるだけ地域交流もお願いしますという案内はやっているのです。

山里課長: サッカーの方のキャンプもだいぶ増えてきています、できるだけ地域の高校生とかサッカー部の子と交流してもらってということで、子どもたちとか小学生とかも、いろいろな面でそういった交流も図っています。

島袋事務局長: 競技力アップのための、競技志向を持っている子どもたちには、トップの選手、プロの選手が来るという部分はすごくメリットがあると思います。ただ先ほど言った地域の健康増進のための、地域の運動を広くスポーツ活動のやる気を起こさせるところ、一般的な競技志向ではない人たちの、そこまではないあまりつながっていない気がします。

ご承知かと思いますが、沖縄県の平均寿命で男性の方も43位までわーっと落ちてしまって、女性の方の順位もどんどん落ちてきているので、そういう日々のスポーツ習慣というのは、一般県民に向けたそういう啓発というのはやはりどうしたらいいのだろうかというのが正直なところですよ。

柏木氏: トップの選手と触れ合う機会ということで、沖縄県の部活動の加入率が何かに関係することが多いのですか？都市部では、スポーツ実施が二極化してきて、クラブに入っている子供と、部活動は全くしないというような、非常に分かれてきたというイメージがあります。沖縄県では毎年キャンプにいろいろな選手と会える機会が多いと思います。意外と東京や神奈川などは、自分からプロ選手の情報を拾

いに行かないとそういう機会は巡り合えませんが、子供のスポーツの加入率などは、プロスポーツ選手と触れ合うところにも影響するのではないかという感じを聞いていました。

あと、もう1つお聞きしたいのですが、やはりナショナルチームからの要望って、施設のハードルが高くなったりするではないですか。特にどういう要望が多かったり、課題はありますか。例えば芝のレベルをどれぐらいにしてくれとか、あとはリカバリーするようなジャグジーはどうなのかとか、そういう要望はどういった競技団体が多かったですか。

平良主任: おっしゃるとおりです。やはりナショナルクラスになればなるほど、施設に対する整備などというのはクオリティーは結構高めにも求められてきます。ただ、どの市町村もそこに応じてしまうと、1年間を通した中でごくわずかな期間だけの活用となると、ここの維持管理というのが結構難しいという中で、今各市町村が取り入れているのがチームの情報の中でどこまでという、ハイスpekではなく、逆にどこまでであれば対応してくれるのかというのをしっかりと密に関係性も築けているがゆえの調整になるかと思っています。

ただ、本県のほうは数年前に行った「芝(しばんちゅ)事業」というのがありまして、芝の整備というのがものすごく他府県に負けないぐらい進んでいる環境にありますので、われわれとしても野球、サッカー、前年度からラグビーに力を入れて、野球とサッカー以外にも子どもたちにいろいろな競技を目にさせていただくということで、芝生のグラウンドを生かせる競技ということでラクロスとラグビーに着目しています。

やはり施設の持っている整備に関しても近隣の市町村と連携して、例えばナショナルクラスがどこどこに来ます、例えばウエイトの重さが足りませんと言ったら、近隣からレンタルとか、そういったことを密に図って行政と市で連携するというので受け入れを行っています。(写真7)

柏木: ありがとうございます。

佐藤所長: 今のお話で、伊江村は那覇からどれぐらいの時間なのですか。

平良主任: 北部のほうの漁港から船で20~30分程度で行ける場所です。

佐藤所長: そうですか。例えば、那覇周辺にそういったトレーニング場が管理されていて、ウエイトリフティングレベルの重量などがあ

れば、そこから持ち運びが可能であり、那覇の様々な場所での合宿に利用できると思います。体育館でも多目的に卓球やバドミントンなどが簡単にセッティング出来たり、レスリングマットも簡単に2面、3面敷いてくれるだけでも、トレーニングとして代表チームなどの招致を含めて多く望めるかと思います。特に各競技が合宿でウエイトトレーニングをする際、どこか1つそういう施設があって、そこを拠点に機材を用意できるというのが理想ですね。

島袋事務局長: 県内各地にどういう施設があって、どういう機材をそろえているかというのは、ある程度情報は蓄積していますので、今おっしゃったように、ウエイトリフティングの代表チームがここでやりたいということだったら、ではこの代表チームが必要とする機材がどここの施設にあって、こちらまで運べるかどうかというのは、ある意味こちらが市町村をまたがってそれぞれと調整して、こういうような調整をしたらいいですね。

そもそも今ウエイトリフティングでいくと国頭村はだいぶ代表トップクラスがメンバーで来ても、もう十分練習できるような環境をすごく整えていますので、まずはそこでどうですかという形でご案内しながら、またそれ以外のラグビーも結構多くのウエイトを必要とするので、トレーニングの時は、その時は国頭の機材をここへ運べるかどうかというのは、こちらがある意味、チームから要望を聞きながら各市町村の施設ごとに連絡調整して整えるような機能をこちらが担っています。

佐藤所長: それが情報共有され、一元化されていけば、うまくできますよね。有難うございます。

島袋事務局長: 先ほど言った芝人育成事業はもう10年以上前からやっているのです。もうずっと長年、芝育成の人材育成から始めて、丁寧に芝環境を整えてきましたということで、だいぶノウハウとかも実際に各施設のグラウンドが整ってきていますので、最近芝環境に対してはああしてこうしてというのは、たぶんほとんどないです。もう来ていただいたら、素晴らしいと、もうここですぐやりたいということで、大体もう各Jリーグチームさんなどいろいろ連絡が来ますけれども、ほぼ使える施設は全部満杯で。それで他にないかと。グラウンドが今は足りない状況です。

各市町村にも、いろいろJリーグさんから来るけれども今はお断りしている状況だけれどそちらで整備できないかというのを、うちも県と連携しながらそういう情報をどんどん市町村に流して、整えられるところは整備してほしいと。そ

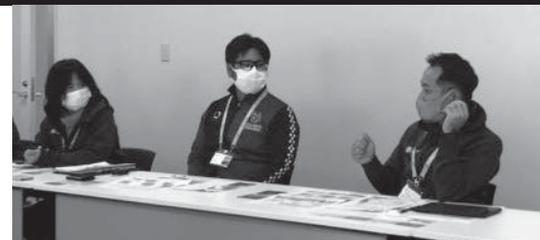


写真7 (写真左から山里課長、平良主任、島袋事務局長)

うすればうちがつながりがあるところを紹介してプロチームを誘致できますというようなことを今の実態としてはそのような状況で、まだ受け入れは整えれば来て欲しいという状況です。

平田: 繁忙期はそれでいいと思うのですが、閑散期の時、特にテニスなのですがインターハイが沖縄であった時に、テニスコートをきちんときれいに作って、インターハイも何もやっていない時に来たら誰も使っていなかったりしているのです。東京などだったらあり得ない、もうコートを探すのが大変なのに、10面もあるのに誰も使っていない。暑いというのもあるのですが、もちろん使っていなければ維持費もかかるでしょうし、その辺りというのは他の県と比べると閑散期の使用率など沖縄はどうでしょうか(写真8)。

島袋事務局長: サッカーのグラウンドなどでも、キャンプが終わった後にどういうところに来ていただくかということも、やはり各市町村は悩んだり、色々試したりしている中で、今うちがここ最近ターゲットにしているのが先ほど言ったラグビーです。サッカーと同じグラウンドでできると。今ちょうど1月から入ってくる。その前の時期で来ていただけるという競技なのです。そういうところが閑散期にどれだけ活用していただけるかということが、今試行錯誤してターゲットをいろいろ取り組んでいます。

平田: 県民の方はあまり施設を使われないのでしょうか。

平良主任: いや、テニスとかソフトテニスは競技人口は結構多いほうです。

平田: そうですよ。沖縄は強くて、今年も声を掛けさせてもらっています。

平良主任: : テニスコートもこの辺りは予約は取れない状況で満杯です。



写真8 (写真左から2番目 平田氏)



様子2

平田氏：県民の方が割と最近運動されないと、こういうのを何か有効活用というか、何かされているのかなというのも少し気になって質問させていただきました。

島袋事務局長：ある意味、われわれとか市郡のスポーツ協会に求められているところかなとは思いますが、具体的にはまだ模索している状況です。

柏木氏：ちなみにバスケットボールの世界選手権は、海外からの問い合わせというのはもう来ているのですか。

山里課長：日本バスケットボール協会を中心に地元の協議会と県と関係団体も入って調整しています。予選が少し始まっていて、実際に日本は予選ラウンドなのでその辺りも入ってくるチームが決まったらまた大々的にPRをやっていく予定です。

島袋事務局長：そうです。恐らく、こちらで今年開催されるチームが決まった時にはお問い合わせが増えるのかなとは思っています。

山里課長：モノレールもラッピングしたりして、いろいろ大会の気運醸成をやっています。

李氏：沖縄のキャンプというのは憧れです。私達の大学サッカーは行きたくても行けないとか、そういう費用の問題もあつたりしますが、今ちょうどプロはJリーグのチームがキャンプをやっていると思うのですが、アマチュアチームって、大学まで含めてサッカーがあまり来ていないイメージがあるのですが、実際はどうでしょうか？(写真9)

平良主任：大学からもお問い合わせをいただいています、やはりチームとのバッティングもあつたりはするのですが、基本的にチームの合宿が終わった後、2月後半から3月ぐらいにかけて県内へ大学のチームが幾つか来ていたというのが現状です。

李氏：リーグ戦が4月頭から始まるので、やるとしたら試験が終わってから2月～3月にかけてやるのですが、大体、宮崎とか鹿児島とかまでなのです。プレシーズンなので練習試合の



写真9 (写真左から1番目 李氏)

ような感じでチームが集まってやっているのですが、沖縄はあまりそういうイメージがなくて。連盟の予算も問題ですが、予算を組んで来ると思うのですが、なかなか沖縄でやっているチームって少ないというイメージがあったので。

佐藤所長：交通費は早めに取りれば安いですね。だから、結構宮崎などよりもいいかもしれないですね。暖かいしね。

李氏：いいですね。

佐藤所長：招聘する側として、例えば琉球大学が関東大学サッカー連盟などにお願いして、10チームほど集めて練習試合を開催するなどもいいですね。このような素晴らしい施設がたくさんありますのでもったいないですね。関東ですと子どものサッカーが大変盛んです。週末や連休には各地方でトーナメントやリーグ戦方式で頻りに大会を開催しています。沖縄には大会開催の魅力がたくさんあるので、誘致のマーケットはたくさんあるのではないかと思います。

柏木氏：大会を開催するので、それに合わせて合宿に来るといふかたちは如何でしょうか。

島袋事務局長：沖縄でそのような企画をすれば本土側から参加したいとのニーズはあるということですかね。

佐藤所長：強豪チームの大学を招聘すると、そ

のチームと戦いたいチームがたくさん集まります。それは小学生のサッカーも同様であり、J下部のチームが参加するだけでそのチームと対戦したいチームが集まり、大会のグレードも上がります。関東ではそういう方法でチームを集めて開催しています。

島袋事務局長：県外からの誘客というのはこちらの目的としているところであるので、やはり来ていただくためにどうするかということで、今ヒントをいただいたけました。

柏木氏：小中学校の多くは保護者の多くが帯同したり、応援にきますね。

佐藤所長：レスリングはマイナー競技ですが、子どもの全国大会となると、親御さんからおじいちゃん、おばあちゃんまで応援に行ったりしますので、5倍、6倍に増えます。日本の大会で一番観客が多いのです。子どもの大会をうまく誘致することも良いのかと思います。沖縄の子どもたちと交流を深めたりする企画も面白いかもしれませんね。

島袋事務局長：いろいろな企画をしても面白いかもしいですね。各競技団体には意識してそのような企画を作ってもらい、誘客につながればよいですね。

佐藤所長：スポンサーを探して冠大会や自治体名など、名前を付けて開催されたら良いですね。沖縄は本当に可能性あります。

砂川氏：ありがとうございます。少し時間も過ぎていきますので、まだまだ話は尽きませんが、これをもちましていったん区切りを付けさせていただきます。ありがとうございます。

佐藤所長：どうもありがとうございました。



全体集合写真